

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 2 年 7 月 2 日 (2020.7.2)

【公表番号】特表 2019-523308 (P2019-523308A)

【公表日】令和 1 年 8 月 22 日 (2019.8.22)

【年通号数】公開・登録公報 2019-034

【出願番号】特願 2018-551232 (P2018-551232)

【国際特許分類】

C 0 9 J 133/04 (2006.01)

B 0 5 D 7/24 (2006.01)

B 0 5 D 3/06 (2006.01)

B 0 5 D 7/00 (2006.01)

B 0 5 D 7/02 (2006.01)

B 0 5 D 7/14 (2006.01)

B 0 5 D 3/00 (2006.01)

C 0 9 J 137/00 (2006.01)

C 0 9 J 133/14 (2006.01)

C 0 9 J 7/38 (2018.01)

【 F I 】

C 0 9 J 133/04

B 0 5 D 7/24 3 0 1 P

B 0 5 D 7/24 3 0 1 T

B 0 5 D 3/06 1 0 2 Z

B 0 5 D 7/24 3 0 2 P

B 0 5 D 7/00 G

B 0 5 D 7/00 E

B 0 5 D 7/02

B 0 5 D 7/14 P

B 0 5 D 3/00 F

B 0 5 D 7/24 3 0 3 A

B 0 5 D 7/24 3 0 2 U

B 0 5 D 7/24 3 0 2 Z

B 0 5 D 7/24 3 0 2 Y

B 0 5 D 7/24 3 0 2 X

B 0 5 D 7/24 3 0 2 T

B 0 5 D 7/24 3 0 3 E

C 0 9 J 137/00

C 0 9 J 133/14

C 0 9 J 7/38

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 5 月 22 日 (2020.5.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

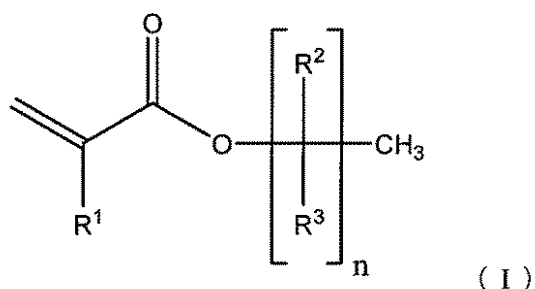
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 のステップにおいて、

(i) 式 (I) :

【化 1】



[式中、

R^1 は、H 又は CH_3 であり、

R^2 及び R^3 は、共に H 又は共に CH_3 であり、

n は、0 ~ 22 の整数である]

で示される少なくとも 1 種のアクリルモノマー又はそれらの混合物、及び

(i i) 脂環式エポキシド、オキセタン、一置換オキシラン、又はそれらの混合物から選択されたペンダント反応性官能基を含む少なくとも 1 種のモノマー

を含む混合物を反応させ、

第 2 のステップにおいて、

第 1 のステップにより得られた混合物を、

(i i i) 少なくとも 1 種のカチオン性光開始剤、及び

(i v) 任意に他の添加物

と反応させることにより得られる、UV 硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項 2】

(i) は、前記 UV 硬化型感圧アクリル接着剤の総重量に対して 50 ~ 99.9 重量%の量で存在する、請求項 1 に記載の UV 硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項 3】

式 (I) において、

R^1 は、H 又は CH_3 であり、

R^2 及び R^3 は、共に H 又は共に CH_3 であり、かつ

n は、0 ~ 5 の整数である、

請求項 1 又は 2 に記載の UV 硬化型感圧アクリル接着剤。

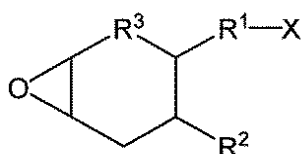
【請求項 4】

モノマー (i i) は、前記 UV 硬化型感圧アクリル接着剤の総重量に対して 0.0001 ~ 2 重量%の量で存在する、請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の UV 硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項 5】

モノマー (i i) は、式 :

【化 2】



[式中、

R^1 は、O、S、 $C=O$ 、又は直鎖状、分枝状、若しくは環状アルキレン、又はオキシアルキレン、アリーレンであり、

R^2 は、直鎖状、分枝状、及び環状アルキル又はアルコキシ、アリール、H、ハロゲン

、 $C=O$ 、又は共有結合接続を介した縮合脂環式環である R^1 の一部であり、

R^3 は、 $(CH_2)_n$ で、 $n=0\sim 3$ であり、

X は、アクリレート又はメタクリレートであるか、又は $-W-Y$ 基を含み、ここで

W は、 O 、 S 、アミド、炭酸塩、ウレタン、尿素、シロキサン、又はそれらの組み合わせであり、

Y は、 $-R^4-C(R^5)=CH_2$ であり、 R^4 は、直鎖状又は分枝状 C_{2-10} アルキレン、 C_{2-10} オキシアルキレン、 $C=O$ 、又はアリーレン若しくはその誘導体であり、 R^5 は、 H 又は CH_3 である]

を有する脂環式エポキシドから選択される、

請求項1～4のいずれかに記載のUV硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項6】

カチオン性光開始剤(iii)は、スルホニウム塩若しくはヨードニウム塩又はそれらの混合物から選択される、請求項1～5のいずれかに記載のUV硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項7】

硬化したUV硬化型感圧アクリル接着剤は1～3の相対粘度を有する、請求項1～6のいずれかに記載のUV硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項8】

UV硬化型感圧アクリル接着剤は、さらに粘着付与剤を含む、請求項1～7のいずれかに記載のUV硬化型アクリル接着剤。

【請求項9】

硬化したUV硬化型感圧アクリル接着剤は、 $-50\sim 25$ の T_g を有する、請求項1～8のいずれかに記載のUV硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項10】

硬化した請求項1～9のいずれかに記載のUV硬化型感圧接着剤と、基材とを含む物品。

【請求項11】

基材は、プラスチック、ガラス、不織布、又は金属により構成される、請求項10に記載の物品。

【請求項12】

硬化したUV硬化型感圧接着剤は、 $10\mu m\sim 500\mu m$ の厚さを有する層である、請求項10又は11に記載の物品。

【請求項13】

請求項10～12のいずれかに記載の物品の製造方法であって、

(i)請求項1～9のいずれかに記載のUV硬化型感圧アクリル接着剤を基材上に塗布するステップ、及び

(ii)前記UV硬化型感圧アクリル接着剤をUV硬化させるステップを含む方法。

【請求項14】

UV硬化量は、 $0.2\sim 20mJ/\mu m$ である、請求項13に記載の方法。

【請求項15】

硬化した請求項1～9のいずれかに記載のUV硬化型感圧接着剤の、固定、接着、シーリング、ラベリング又は薬剤送達手段としての使用。